
9. 「農」をベースとした“まち”と“むら”の交流

蛇沼八の会
(長野県飯田市)

I. 活動の目的

私たちの住んでいる飯田市は人口10万都市です。長野県でも南にあり、秋にはリンゴ、ナシが採れる産地でもあり、緑豊かな自然環境に恵まれた場所にあります。

しかし、中山間地が多く、一歩その地区に入ると高齢化が進んで、後継者が町に出てしまい農地の管理もできない状況が多く見られるようになってきています。

蛇沼地区は現在29戸、60才以上人口45%と飯田市内でも高齢化が進み、平成1～6年度まで小学生、保育園の生徒がいない状況にありました。そのため農地の管理もままならず放置され、農村の景観をこわしていく実状です。

そんな実状で、なんとか活性化しようと、平成2年に蛇沼八の会を有志8人を中心に結束致しました。

地域の活性化

- ・特産品作り…きのこ
- ・町と村の交流…休耕田の利用（米作り）
- ・地区内の美化…桜の植樹、あやめ
- ・老人ホームとの交流…川路老人ホーム
- ・交流施設（宿泊）…空屋を利用

II. 活動の内容

1. ふれあい農園…水稲30a
2. きのこの里作り…ひろたけ、なめこ、くりたけ
3. まちとむらの交流
4. 交流施設づくり



この空家を修復して交流施設にする



休耕田を利用したふれあい農園

1. ふれあい農園

ふれあい農園は休耕田を利用して、市内の8家族による水稲作りをしています。作業はほとんど町の家族の人にしてもらい、月1回のペースで管理をして、農業の体験をして収穫された米は全部持ち帰ってもらっています。

2. きのこの里作り

行政と森林所有者の協力を得て、まつたけ山の整備を実施。又、毎年川路老人ホームの入所者とひろたけ、なめこ、くりたけのこま打ちを実施しています。

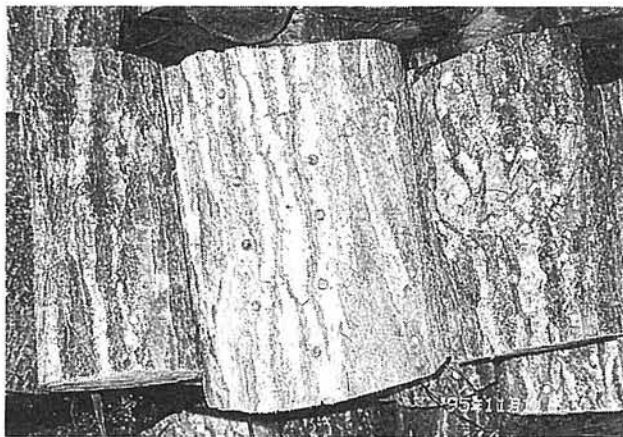
3. まちとむらの交流

世代を結ぶ交流を目的に、家族間の交流により定住人口の安定と、交流人口の増加により地域の活性化になればと、会員も20歳代から70歳代、ふれあい農園参加者も保育園、小学生と家族付き合いが出来るよう工夫しています。

4. 交流施設づくり

以上の1～3を実施していくには施設が必要になりました。宿泊をしながら、新しい町と村との交流のきっかけになるような話し合いの場になればと思います。

自分達の手で手間をかけ、充実感を得られるように心がけています。



↑キノコの菌を打ちつけた木



まちと老人ホームの
人々を招いた収穫祭の様子→

III. 結果と考察

私たちが、たった8人で始めた苦しみから生まれた活動が今回の助成事業により、自分達の手でやれば、結果が出るという自信が生まれ、地域内で協力を少しでもしようという連帯感が生まれたように思います。

行政・地域の外にも「蛇沼八の会は、おもしろい事やっとな」と言われる、その言葉を素直に喜んで受けとめ、これからも頑張っていきたいと思っています。

今後、交流施設作りをメインにして、定住人口の安定と地域の活性化に取り組みます。